

事務事業評価シート 令和 2 年度事後評価・決算

令和 4 年 2 月 10 日時点

事務事業名	コード 39720	家庭教育活動費 ① (家庭教育学級)(家庭教育学級相談体制)	予算科目	会計 一般	款	10	項	4	目	1	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業(重点施策)重2 <input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画 <input checked="" type="checkbox"/> 新市建設計画 <input type="checkbox"/> 定住自立圏構想 <input type="checkbox"/> 主要事業
基本施策	7	子育て支援の充実	根拠法令	特になし								
施策の展開	16	結婚・子育て環境の整備	戦略事業	82 家庭教育の充実								
施策の展開			戦略事業	83 家庭教育相談体制の充実								

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 平成 年度～ 年度～ <input checked="" type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 年度～ 令和 年度まで	【家庭教育学級】市内小・中学校の1年生の保護者自身が、親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育の考えを深めていく学習の場として、また保護者同士が互いに支えあう関係づくりの場として、市内小・中学校の保護者を対象に家庭教育指導員や社会教育指導員と連携しながら家庭教育学級の充実を図る。市内小・中学校20校に対して、学校規模に応じ 運営補助金を交付する。 【家庭教育相談体制】社会教育指導員が家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者等に対して電話などによる個別的な相談体制の充実に努める。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
家庭教育学級は、家庭が本来果たすべき役割を見つめなおす機会となるよう、保護者自身が親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育について、講師の話や話し合いを通して考えあひ深めていく学習の場、保護者同士が交流を通して互いに支えあう関係づくりの場として開設した。	近年、核家族化により、同居の祖父母から子育てのアドバイスをもらったり、地域で子育てを支えたりすることも少なくなっている。そんな中で、子どもの教育を母親が一人で抱え、母親自身が不安を抱えながら子育てをしていることが多い。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
参加者から「家庭教育学級を通じて保護者同士のつながりを強め、子育ての不安を減少させることで、子どもに対して安定した気持ちで接することができ、子どもの気持ちの安定にもつながる」などの意見がある。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(2年度の決算) 単位:千円	
1.臨時雇賃金	講座時保育補助員賃金
2.報償金	150 合同開級式・合同講演会講師謝礼
3.消耗品費	講座用消耗品
4.食料費等	86 講師お茶代、建物等借上料
5.家庭教育学級運営補助金	1,108 家庭教育学級運営補助金(小・中学校20校)
② 特定財源の内訳(2年度の決算) 単位:千円	
1.国庫支出金	
2.都道府県支出金	
3.地方債	
4.その他	

事業費	費目内訳	単位	29年度(決算)	30年度(決算)	1年度(決算)	2年度(決算)	3年度(予算)
		千円	24	26	17	34	
財源	1.臨時雇賃金	千円	200	200	200	150	200
	2.報償金	千円					
	3.消耗品費	千円	4	5	77	86	105
	4.食料費等	千円	1,600	1,600	1,600	1,108	1,600
	5.家庭教育学級運営補助金	千円					
事業費計(A)		千円	1,828	1,831	1,894	1,344	1,939
財源	1.国庫支出金	千円					
	2.都道府県支出金	千円					
	3.地方債	千円					
	4.その他	千円					
	5.一般財源	千円	1,828	1,831	1,894	1,344	1,939

前年度増減理由	家庭教育学級運営補助金の減
---------	---------------

従事職員数 常時 2人 最大 11人 × 2日 = 延べ 22人

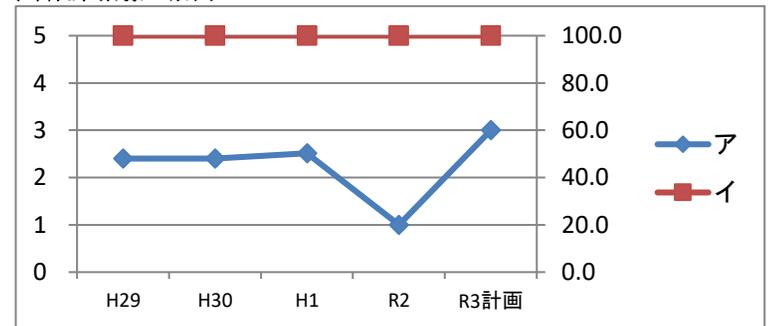
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
	2年度実績(2年度に行った主な活動) 小中学校1年生の保護者を対象に、親の役割、子どもの心の理解について考えを深めていく学習の場としての学級を各学校で1回～3回開催した。また20校の合同学習会として子育てに関する講演会を1回開催した。(例年2回)		ア 合同学習会開催数	講演	2	2	2	1
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
	対象意図 市内小・中学校の1年生の保護者 子どもとのかかわりを学んだり、安心感を得たりすることで、保護者の気持ちが安定し、子どもの気持ちの安定につながる。 対象意図 小・中学生の保護者 家庭教育に関する悩みや不安が解消される		イ 学校の学習会数	数	72	68	67	35
目的		ア 児童・生徒1人当たり家庭教育学級参加回数(延べ参加者数/[小学校1年生児童数+中学校1年生生徒数])	回	2	2	3	1	3
			イ 相談によって悩みや不安が解消された相談者の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果				
施策貢献度	成果向上余地	コスト比率				
	かなりある	ある程度ある	ほとんどない	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	大きい	①			(1)	
普通						
小さい						
		②				
		③				
		④⑤				
		⑥				
		⑦⑧				
		⑨				

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 実施困難
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標のタイプ 数値増=成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下 成果指標イ 数値増=成果向上 <input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下
③ 今年度取組事項(3年度に取り組む主な事項について記載)	時期 R3. 4月～ 内容 コロナウィルスの感染状況に注視しながら、中止とならないよう対策を講じ実施していく。 今後の方向性 令和3年度 学校側から本事業の事務量、運営方法について見直しを要望されている。事業目的に適う限りで見直しを図る。
評価内容	比較 28年度 29年度 30年度 1年度 2年度 29年度 30年度 1年度 2年度 3計画 ア 0 0 0 Δ2 2 イ 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0